

はじめに

富山大学医学部臨床検査学講座
北島 勲

昨年10月に富山大学・富山医科薬科大学・高岡短期大学は統合され新富山大学として再出発となりました。従いましてフォーラム富山「創薬」も7年目を迎えましたが、今回開催されます18回フォーラムは新大学としての第1回目という役割を担うことになりました。今回はいままで取り上げることのなかった「検査」という領域を取り上げさせて頂き、「21世紀型検査創薬と検査技術のイノベーション」というテーマを設定いたしました。検査技術の開発という内容も含むことで、工学・化学関係の方々も参加していただき、新大学が目指す医学・薬学・理学・工学の融合研究にも貢献できればと考えております。

さて、既にヒポクラテスの古代ギリシャ時代から医学・医療は存在しておりましたが、血液や尿などの生体資料を臨床検査として疾患の診断や治療に本格的に応用できるようになったのは20世紀になってからであります。しかし、20世紀の医学・医療の進展を大きく支えたのは、臨床検査の進歩とその臨床への導入であったことを否定する者はいないと思います。今や化学・工学等の科学の目覚ましい進歩を基盤に医工連携によるナノテクノロジーの開発により血液1滴から全ての検査が可能となる時代に突入しました。さらに、分子生物学の基礎研究成果は着実に臨床現場に活かされてきており、遺伝子検査を主体にした感染症や癌遺伝子検査はなくてはならない検査項目となっています。さらに時代は遺伝子多型を基盤にした疾患感受性検査は個人の特性に応じたテーラーメイド医療への実践へと期待が高まっています。

本フォーラムでは、まず、このような日進月歩で進む検査の発展に富山県の研究者がいかに取り組んでいるかご紹介したいと思います。検査試薬創薬領域からは、とくにこれからの高齢化社会に多い疾患を取り上げました。脳梗塞・心筋梗塞などの血栓症を早期に診断できる検査試薬の開発とその応用について私が先陣をきりたいと思います。次に、関節リウマチで関節障害を精度よく診断できる検査として注目されているマトリックスメタロプロテアーゼ3(MMP)について富山で開発・担当されました第一ファインケミカル株式会社松木繁久先生から紹介して頂きます。次に、検査技術の開発研究領域に移り、富山大学附属病院病理部福岡順也先生より病理組織を用い高集積アレイ開発による癌に対するオーダーメイド治療への展開を伺います。さらに富山大学工学部山口昌樹先生より、独自に開発された唾液を用いた交感神経活動活性測定装置の開発とその大学発ベンチャー化への経緯に関してご講演いただきます。最後にゲノム診断の世界的シェアを誇るロシュ・ダイアグノスティック株式会社遺伝子診断開発部長玉造滋様より、ゲノム診断創薬の現状と将来の可能性・開発課題についてグローバルな企業の立場から特別講演を頂けることになっております。

本フォーラムの最後に特別に時間を設け、富山オリジナルブランド、パナワンが発売となりましたのでそれを記念して、その開発と評価、発売までの報告会も企画いたしました。寒さと雪を吹き飛ばすような活発なご討論を御願いたします。